

静脈血栓除去デバイス（Penumbra CAT システム）の重症 DVT に対する保険償還は 2023 年 9 月にされましたが併用するステントがないため、現在動脈ステントの使用の倫理および適応外使用の承認を受けた限られた施設で市販後調査（PMS）が開始されております。

しかしながら、適応基準が厳しく、施行施設も少ないため PMS 進行が思わしくありません。会員の先生におかれましては、歩行不能で重症な腸骨静脈含む深部静脈血栓症症例がございましたら、何卒静脈 PMS 施設にご紹介のほど宜しくお願い致します。

なお、適応を示す適正使用指針は <https://js-phlebology.jp/?p=6762> となり、その適応症例の概要は以下です。

適応症例：有痛性青股のみではなく重症 DVT 含みます。すなわち

①動脈虚血を伴う重症の深部静脈血栓症（有痛性青股腫、有痛性白股腫、静脈性壊疽）

②抗凝固療法と下肢挙上あるいは圧迫療法などの適切な保存療法にても常時疼痛があり日常生活を著しく妨げる深部静脈血栓症（rVCSS pain score 3 あるいは rVCSS pain score 2 かつ Villalta スコア 15 以上）」

現時点で、承認得ている PMS 施設は以下ですが、随時変更がございます。

施設名	都道府県	診療科
市立奈良病院	奈良県	放射線科
福岡山王病院	福岡県	循環器内科
SUBARU 健康保険組合太田記念病院	群馬県	循環器内科
横浜南共済病院	神奈川県	心臓血管外科
慶應義塾大学	東京都	外科
福島第一病院	福島県	心臓血管外科
京都大学医学部附属病院	京都府	循環器内科
三重大学医学部附属病院	三重県	循環器内科
国立循環器病研究センター	大阪府	心臓血管外科
東北大学病院	宮城県	総合外科

血栓除去デバイス関連学会協議会

代表 東 信良

静脈担当 孟 真